

ユニセフお年玉募金にご協力ください

～わたしのお年玉を世界の子どもたちのために～

We Support



コープさが生活協同組合

コープさが生協は、世界中の子どもたちが十分なケアを受け、よりよい人生のスタートがきれるよう、ユニセフ募金に通年で取り組んでいます。この時期、世界の子どもたちへのお年玉として「ユニセフお年玉募金」を呼びかけています。2019年度とりくんだユニセフ募金の総額は42万3,490円でした。2020年夏の新型コロナ緊急募金は36万9,536円でした。ご協力ありがとうございました。



@UNICEF Timor-Leste/2019/IndraMonemnasi

ユニセフ（国連児童基金）とは

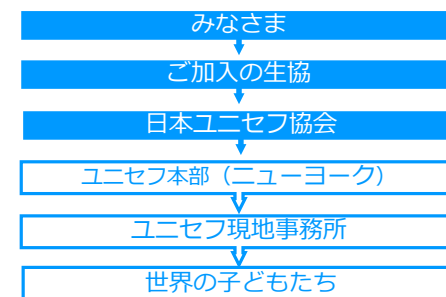
ユニセフは、世界の子どもたちの命と権利を守る主要な機関として、約190の国と地域で活動を行っています。今回お預かりするお年玉募金はユニセフの定めた優先順位に応じて、世界各地のユニセフの活動に活用される「一般募金」と東ティモールの栄養支援プログラムに活用される「指定募金」となります。

2019年度の生協による募金額

	全国の生協による募金※	コープさが生協の募金
一般募金	98,657,297円	0円
指定募金	84,281,038円	東ティモール 423,490円
緊急募金	17,081,312円	0円
合計	200,019,647円	423,490円

※2019年4月1日～2020年3月31日までの日本ユニセフ協会入金分を集計

ユニセフ募金の流れ



募金でできる支援例



2円 子どもたちの免疫力を高め、感染症にかかりにくくする
ビタミンA カプセル1錠。



ビタミンAカプセル



7円 下痢による脱水症状を和らげる
経口補水塩 (ORS) 1袋



経口補水塩 (ORS)



131円 乳幼児から大人まで使用可能な
HIV/エイズ簡易診断1キット



213円 蚊が媒介するマラリアから子どもたちを守る、殺虫剤を施した蚊帳1張

※2020年1月時点の価格です ※輸送や配布のための費用は含まれていません

募金のお申し込み方法（受付期間1月18日～29日）

1月④週～2月①週のOCR注文書番号記入欄に、下記のお申し込み番号と口数をご記入ください。（eフレズでもお申込みいただけます。）

1□	100円	2823	□数
1□	500円	2833	□数
1□	1,000円	2843	□数

◆新栄店、大町店は募金箱にて募金できます。

◆問い合わせ **コープさが生活協同組合**
組織企画部 電話0952-31-3977



©UNICEF Timor-Leste/2017/mgoncalves

東ティモール母親支援グループのメンバー

※お預かりした募金は税額控除の対象とはなりません。予めご了承ください。

一般募金による支援活動例

保健・栄養

すべての子どもが乳幼児期に十分なケアを受け、守られ、より良い人生のスタートを切ることができるよう、予防接種の普及、母乳育児の推進、栄養改善など総合的な支援を行っています。



© UNICEF/UNI201564/Rich

2019年の成果例

490万人以上の子どもたちが、重度の急性栄養不良の治療を受けました。

教育

男の子も女の子も平等に学ぶ機会を得、質の高い教育を受けられるよう、学習資材の提供、学校施設の設備、教育へのトレーニングなどを支援しています。



© UNICEF/UNI336324/Oatway

2019年の成果例

学校に通っていない子ども**1,700万人以上**が就学前教育、初等、中等教育プログラムに参加しました。

水と衛生

より多くの子どもたちに清潔な水を届けられるよう井戸などの給水設備を作ったり、衛生的な生活が送れるようトイレを設置したり、石けんを使った正しい手洗いなどの衛生習慣を広めるといった活動をすすめています。



© UNICEF/UNI367251/Fazel

2019年の成果例

1,830万人に安全な飲料水を、**1,550万人**に清潔なトイレを提供しました。

子どもの保護

特に厳しい状況にある子どもの保護と、すべての子どもが家族や社会で、また法的にも守られる環境づくりを支援しています。



© UNICEF/UNI339639/

2019年の成果例

出生登録された子どもの数が、**47カ国**で**2,100万人**を超えました。

東ティモール指定募金による支援活動例

※2019年度（第6期）の募金は2020年7月～2021年6月に現地で活用されています。

「新生児と母親のためのコミュニティ保健ケアの改善プロジェクト」

東ティモールでは、栄養不良に苦しむ子どもの割合が高く、母親である女性たちの乳幼児ケアに関する知識が十分に行き届いていません。このプログラムでは、東ティモールの栄養状況が良くない地域にいる子どもたちのために、医療従事者や村の母親支援グループへの研修や保健施設での資材の提供などを実施します。

<具体的な活動例>

1. 医療従事者などの人材育成、母親支援グループへの研修
2. 医療機器の提供、指導用教材の開発
3. 保健ケア習慣の実態調査
4. 保健省への保健制度強化に向けた政策提言



<これまでの活動成果の例（第1～5期：2015年7月～2020年6月）>

- ・特に保健サービスが限られているエルメラ県とビケケ県で、医師、看護師や助産師などの**866名**の医療従事者に対して、新生児ケアや小児疾病、出産、予防接種などに関する研修を**37回**実施。
- ・エルメラ県での**母親支援グループメンバー753人**への栄養指導や母乳育児などの研修。
- ・母親支援グループによる**栄養について学ぶ料理教室が75回**開催されました。
- ・乳幼児用の体重計**27台**、急性呼吸器感染症計測器**1,400台**、蘇生用キット**27台**などの小児用医療機器をエルメラ県・ビケケ県の**医療施設**に提供。

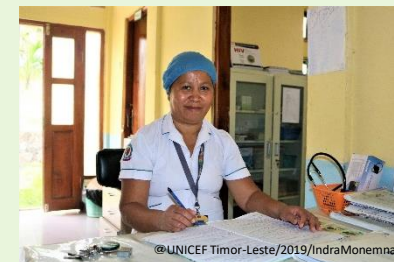
東ティモールの女性と子どものストーリー



医療施設で活躍する医療従事者たち！

ユニセフは予防可能な妊産婦死亡や乳幼児死亡を減らすために、東ティモール保健省と共に医療従事者への研修を実施しています。

アナ・マリア・サルメントさんはユニセフの新生児ケアと安全で清潔な分娩の研修を受けた助産師のひとりです。「助産師として、ビケケ県の女性たち、特にこのセンターに出産に来る女性たちのために働いていることを誇りに思っています」とアナ・マリアさん。



© UNICEF Timor-Leste/2019/Indra Monemmasi
アナ・マリア助産師

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言に伴い、移動制限を受けたことなどから、ビケケ県でも医療施設でのケアを受ける女性の数が一時減少しました。



© UNICEF Timor-Leste/2020/Monemmasi
ビケケ県保健センターにて妊産婦をケアする様子

しかし、子どもと母親に質の高い保健ケアを継続的に利用できるよう、県の保健局と協力し、感染予防や母子保健の大切さを広める広報活動も行っています。

ビケケ県のコミュニティ保健センターは遠隔地にあるため、数々の課題はありますが、研修を受けた医療従事者たちは以前はなかった治療サービスを遠隔地に住む患者に提供することができています。